

調査相談(レファレンス)事例紹介 18



Question



新島襄は、ヘルマン・ヘッセと会ったことがあると聞きました。本当ですか？

Answer

新島襄（1843-1890）は安中藩士の子として生まれました。キリスト教教育者で同志社英学校（後の同志社大学）の設立者です。

ヘルマン・ヘッセ（1877-1962）はドイツ生まれの作家で、『車輪の下』・『데미アン』等が有名です。1946（昭和21）年にノーベル文学賞を受賞しました。『少年の日の思い出』は国語の教科書に長く掲載されています。

襄は二度、世界各地を視察しています。1884（明治17）年、二度目の視察でヨーロッパへ渡った際、襄はスイスのバーゼルにあるバーゼル伝道会のミッション・ハウスを訪れました。このミッション・ハウスの当時の館長がヘルマンの父・ヨハネス・ヘッセ（内村鑑三の著書『代表的日本人』を初めてドイツ語に訳したとされる人物）でした。ドイツ文学者・翻訳者の高橋健二氏によると、ヘルマンの母の日記にも、「日本のニイシマがバーゼルの伝道館に訪ねて来た」と記されており、襄とヘルマンの両親とは交流があったと考えられるものの、ヘルマン本人に会っているかは長らく確認が取れなかったそうです。



そこで1953（昭和28年）にヘルマンを訪ねた高橋氏は、本人に、襄に会ったことがあるかを尋ねました。するとヘルマンは「自分は七つぐらいだったが、よくおぼえている。新島が自分の会った最初の日本人だ。…両親は新島をかわいがっていた。」と答え、大変懐かしがったとのことです。

参考文献

書名	責任表示	出版社	出版年	資料コード
① 新島襄全集7巻	新島 襄/[著] 新島襄全集編集委員会/編	同朋舎出版	1996	05493515
② ヘッセ-思い出の詩人画家	高橋 健二/著	主婦の友社	1977	02774214
③ 新島襄書簡集	同志社/編	岩波書店	1954	01621523
④ 代表的日本人	内村 鑑三/著 鈴木 範久/訳	岩波書店	1995	05447610

今回ご紹介した他にも調査相談（レファレンス）事例をホームページに多数ご紹介しています。

【群馬県立図書館ホームページ＞調査相談＞調査相談事例・郷土人物データベース】

お問い合わせ：群馬県立図書館 〒371-0017 前橋市日吉町1丁目9-1 電話：027-231-3008